

ミクリ (学名: *Sparganium erectum*)

[ミクリ科 ミクリ属]



▲亀岡多目的公園の池に群生するミクリ

湖沼・湿原・ため池・河川・水田などの様々な水環境に生育する植物は、総称して水生植物と呼ばれます。この水生植物は、水辺の生態系の基盤を成すとともに、水質維持や水生生物の棲みかを提供するなど重要な役割を果たしています。しかし、水環境の変化に敏感な種が多く、湖沼・ため池・河川などの埋め立てや改修工事、外来の水生植物の侵入、管理が放棄された水田やため池の遷移の進行など人為的な環境改変により全国的に種が減少しています。現在、日本に在来する約270種の水生植物のうち約4割が絶滅の危機に直面していると言われています。

只見町に生育する水生植物の一つにミクリがあります。ミクリは、湖沼や河川、水路などに群生する多年生の抽水植物(茎や葉が水面から空気中に出ている植物)で、高さは0.5~1.5mほどになります。日本列島に広く分布するほか、北半球の広い範囲およびオーストラリアに分布しています。6月から8月にかけて雄頭花と雌頭花をつけ、受粉し、成熟した雌頭花は直径1.5~2.0cmの球形の集合果(小さな果実が多数集まった果実)になります。この集合果がグリのいがに似ていることからミクリ(実栗)と呼ばれています。只見町では、水の郷只見川公園、亀岡多目的公園の池、布沢山田開拓地、人家周辺のため池などに生育が確認されています。環境省レッドリスト(2017)では“準絶滅危惧”、福島県レッドリスト(2002)では“注意”にカテゴリーされており、「只見町の野生動植物を保護する条例」のもとでも保護・保全の対象種となっています。

企画展示

只見ユネスコエコパーク関連事業・只見自然環境基礎調査報告
「只見の湿原—その生態と歴史」

期 間:1月20日(月)まで開催中

場 所:ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー

詳しくは、
只見町プラセンター
までお問い合わせ
ください